

# 幼珠連通信

全国幼児珠算教育連盟

(事務局：大阪珠算研究所内)

発行人 大西 信二

## 牛乳は発ガン飲料だ！！

会長 井上 文克

牛乳は牛の子が飲むべき物であって、人間が飲む飲み物ではない。これは、じつに簡単な自明の理である。なのに、人はなぜこれを「愛飲」するのか？

いちばん先に返ってくる答えは、おそらく「牛乳にはカルシウム分がとても豊富だから」であろう。しかし、現代栄養学が得意とする成分分析値で割り出してみても、カルシウムだけのことなら、むしろ海藻類のほうが、ずっと多いのである。例えば、わかめ100gの中には牛乳の十倍1000mlも含まれている。田作り（ゴマメ）ならば、何と牛乳の十五倍である。

母乳と比べてみると、確かに牛乳のほうが三倍近く母乳よりも多い。しかし、これは牛の子が生まれて間もなく、すぐに立って歩き始めることからわかるように、牛は足腰から発達し、一方、人間は頭から発達する。つまり、牛と人間とではその成長過程がまるっきり逆なのである。生物学上、ヒトの身体的成長がいちばん遅い。したがって、牛乳を飲めば、肉と同様に、骨格形成に深いかかわりのあるカルシウム過剰によってリンとのアンバランスを招き、本来ある生理的カルシウム代謝を著しく混乱させることになる。

次に、牛乳は高蛋白質としても勧められているが、母乳と比べてみると、これまた牛乳のほうが母乳より三倍も多い。つまり、それだけ濃厚なわけだ。しかし、蛋白質の組成を見ると、牛乳の大半はカゼインという成分で占められ、母乳のほうはラクトアルブミンという成分が多い。人間の乳児の成長に必要なのは、まさにこのラクトアルブミンのほうなのである。

牛乳にはその他、生理的に自家生産される発ガン物質の過酸化水素を分離するカタラーゼ酵素を活性化させる銅イオンが不足していることが知られており、また牛乳そのものに白血病ウイルスをもっていることが、外国の学者から発表されている。私は、牛乳に白砂糖がプラスされた場合、子供の白血病が圧倒的に多いことを確認している。このように、牛乳はガンの前駆状態のアレルギー体質の元になり、直接的なガンの要因になり、白血病の元になる。

これに加えて、現在、牛乳には数々の有害物質が混入している。乳牛に与える濃厚配合飼料には、抗生物質、成長促進剤、精神安定剤などの化学物質が多数使われているのである。現在市販されている牛乳の大半は、ウルトラプロセス法といわれる120～130度という高熱殺菌で処理された製品である。欧米で行われた実験では、殺菌牛乳を飲ませた子牛が二～三カ月で一頭残らず死んでしまったという報告がある。

以上は 森下 敬一医学博士著「薬だってこんなに効かないー難病も治す自然医食ー」

より転載 発行所 ダイナミックセラーズ出版 電話03-3230-1121

## 一人の人生は多くの人との出会いです。

自分史というと、晩年になって自分が歩んできた人生を回顧して記録を残すというのが主流であるが、ある弁護士は「人生半ばで、一度「自分史」を書いては！」と勧めておられます。

自分史を書くことの効用としては、「私はこれだけのことをしてきて、まだ、これだけのことがしたいんだ」と書いてみることで、これは自分の出発点に戻り、かつ人生の骨組みを再構築する作業でもあり、自分のこれからの人生にとってよい効果をもたらすものである」と語っておられる。

私達は、毎日、日々にげなく、忙しさに追われ、今まで歩んできたことを、ふり返る暇もなかった自己にとって、初心に戻り、歩んだ人生を整理するうえで、今後の動向にも参考になるのではないのでしょうか。

珠算教育に関与する私達 誰でもが十数年前、いや数十年前、目標と希望をもって教室を開塾し、珠算指導を始めました。その頃の状況を思い、若かりし頃の自分を思い出し、現在までの教室の過程など整理し、今後への方向性の指針とすることも大切なことです。

自分が今まで生きてきた道を書き出してみると、どれだけ多くの人とかかわってきたか、あらためてわかるでしょう。家族や先生、友人や先輩・塾生・保護者・近隣の方々、はかり知れないぐらい多くの人たちに支えられてきたことに気づかされます。お世話になった方々、指導実績をあげた塾生の顔々、指導の未熟さで失敗した苦しい思い出、などなどを走馬燈のごとき脳裏に思い浮かび流れていきます。

また、大きな目標をもっていたのに、知らずに立ち消えになっていることも数点あることでしょう。

私達にとって、珠算教育の伝承を願う、よりよい環境を目指し、今後の珠算教育を考える機会にもなり、再度、計画を立案し、再挑戦へと動き出すこともできます。

自ら恩返しや目標の実現など、何かやり残していることはないかと考える機会を持ちたいものです。

---

全国幼児珠算教育連盟通信

平成22年11月15日 第221号

---

## 墨匠の嘆き

日本書芸院参事 瀬戸 白鳳

一年ほど前になるか、本欄で文房至宝について一文を書いた。先日、ある会合で、墨商の社長と歓談のなかで、墨も硯も全然売れませんわと諦めのような嘆きを聞いた。今に始まったことではない。墨液と墨池が当たり前になった今、仕方がない。簡単に、便利にと考え出したアイデアが自分の首を絞めているのではないだろうか。最近「生墨」と言ったネーミングの墨が出ている。酒の「生酒」にあやかる予定なのか。製法の詳細は解らないが、在庫の固形墨を磨って作るようである。

書家は磨墨をしている間、作品創作に蘊蓄を傾けるのが、これまた至福の一時である。それが無い今は、創作の体勢が整いにくいものである。あたかも相撲で仕切りの無いのと同様であろう。かく言う私も墨液党（たまには磨墨はするが）で毒されている。お弟子さんに磨墨を強ければ辞めんとわからないと嘆く先生もいるぐらいだ。全く、情緒も潤いもない現代の世相である。

墨と言えば硯、硯には端溪硯、歙州硯、澄泥硯の中国三大硯がある。端溪硯がキング、端溪硯を知らないのはモグリと言われるが、現物はとても我々ごとき書家には手に入らない。古硯は宋代に掘りつくし、現在は当時の古硯が愛玩家の間を廻っているようである。随分以前に、ふとした縁で、小さな端溪が廻ってきた。端溪には15種類余の石紋があり、硯一面にその石紋が多いほど価値があるようである。私の端溪には3種の石紋がある。蕉葉白、火捺、馬尾紋、芭蕉の葉が風に吹かれてなびく様、火で焦がした跡、馬の尾がなびく様、各々の文様の特長を上手く表している言葉の様に思う。洗硯会と言って、各自自慢の硯を持ち寄って、水桶に入れて、その文様を競い合う会合もある。世の中は平和である。

過日、津軽三味線演奏家の一代記を聞いたことがあった。音を盗め、においを盗めと指導するそうである。書道もよく似ている所がある。線を盗め、線を読め。要するに、リズムを身につけろである。音楽も書道も時間的芸術である。そしてアドリブ芸術である。磨墨通し、蒔蓄を傾け、アドリブの世界に遊ぶのは壺中天有り、誠に至福の一時である。現代の忙しい世はそれが欠けているよう思う。

## 南通市の「中国珠算博物館」を見学して

大西 信二

平成22年7月25日～28日、中国珠算教育問題研究会(大谷茂義会長)主催による上海万博日中珠算文化交流団として、上海の障害児教育の董李鳳美康学校見学と南通市の中国珠算博物館見学をしました。先号に続き、中国珠算博物館の見学模様を報告します。

7月27日、早朝、上海のホテルを出発。高速に乗り、三時間をかけて南通市に向かう。南通市に入ると、私達、珠算交流団を歓迎するために、歓迎花火が鳴り続け、中国珠算博物館に到着する。

「日中珠算交流歓迎」の歓迎の垂幕も目に入り、正しく熱烈歓迎である。「中国珠算博物館」は緑に囲まれた雄大な敷地に6千㎡の博物館で、2004年に政府が建立した近代建築であり、あらゆる種類の算盤・珠算教育の歴史書・研究書などが展示されている。玄関のポールには、そろばん玉をデザインとした粋な広告塘があり、近代建築の素晴らしさを知る。

この博物館に接して、流石に中国は凄い国で、伝統文化を大切にし珠算の理解度の高さに感銘を受ける。この博物館を建立する費用の巨額と維持する経費の莫大さに驚かされる。我が国であれば、事業仕分けという名のもとで、直ちに無くなるであろうと想像する。

会館の中には職員が十数人常勤し、見学者の対応に当たっておられ、あらゆる種類のそろばんの展示と、そろばん教育に当たられた人々の研究資料も掲示されている。嘗て東海珠算学校長であった大矢 甫先生が寄贈されたそろばんも展示されていると聞いていたが現在、倉庫に保管されているとのことで、残念ながら観ることができなかった。

見学後、同博物館内にある食堂で日中珠算交流昼食会に招かれた。高級会計師の施建中博物館館長の親善の言葉で愉しく昼食を頂く。本場の中華料理が次から次へと料理が続く。昼食後、南通市の小学生(3年生・5年生10名)と日本の小学生との親睦競技会が行われる。当初の話では、南通市の小学生の珠算能力は高くないとのことだったが、いざ競技に入ると素晴らしい速さで正確に計算し、日本の小学生の能力を完全に圧倒する有様。

特に、フラッシュ暗算は当地ではまだ、普及していなく、南通市の小学生には初めてとのことであるが、暗算7段程度の問題を正答する小学5年生には驚異を感じた。親睦と言うことで、出場した小学生全員には、優秀という賞状を授与して表彰となりました。

競技会の終了後、南通の小学生と日本の小学生とのマスゲームで親睦を深め、楽しいひとときを過ごし、中国珠算博物館の前で記念写真を撮り、南通市を後にした。

今回の上海万博日中珠算文化交流団は限られた日程の中での視察でかなりの強行軍であったが、大谷茂義団長による中国各地の珠算交流の深さとその成果のお陰で、交流団全員

がよい待遇を受け、安心して上海市・南通市の視察旅行を楽しむことができました。また、一緒に同行しました幼珠連井上文克会長は88才の高齢にもかかわらず、元気に旅行できましたことに心から喜んでおります。

最後に、永年にわたる中国珠算界の交流に努めておられる大谷団長に敬意を表すると共に、共に同行いたしました先生方に感謝を申し上げます。有り難うございました。

全国幼児珠算教育連盟通信

平成22年11月15日 第221号

## 映画「武士の家計簿」(下級武士の生活を紹介) 「そろばん」で家族を守った侍(さむらい)の物語

現在の日本の社会を築いた明治時代になる前の我が国は、武士の社会でした。その武士の生活の様子はテレビで大河ドラマなどで放映されて武家社会は知られていますが、一般の武士

の生活についてほとんど知られていませんでした。

このたび、古本屋で下級武士の「家計簿」が発見されました。その家計簿で武士社会の生活が判明し、映画で紹介されることになりました。

一般の武士(下級武士)の日々の買い物・親戚のつきあい・子供の養育費など、当時の武士の家庭の暮らしぶりが、くわしく映画で放映されます。

この家計簿を記録した武士・猪山直之は代々加賀藩の経理係として仕えた猪山家の跡取り息子で、日々、そろばんの腕を磨き、その才能を認められて加賀藩へ出世することになりました。

しかし、当時の武家の習慣によって出世する度に出費が増え続け、猪山家では、家計が破産する状態となります

猪山直之は「家計立て直す計画」を宣言し、家財を売り払い、家族全員で質素儉約して、多額な借金の返済をします。体面を重んじる武士社会にあって世間からの笑いに耐え、知恵と工夫で日々の生活を前向きに乗り切ります。見栄や世間体を捨てても直之は守りたかったことを、また我が子に伝えようとしたことを 映画で伝えています。

江戸の末期から明治時代へと激動の時代を世間体や時流に惑わされることなく、つつましくも

堅実に生きた猪山家三世代にわたる親子の絆と家族愛を描いた物語です。

12月4日(土)一斉にロードショーで、全国の映画館で、「武士の家計簿」が放映されます。

武士は刀だけでなく、そろばんで、家族を守った侍(さむらい)の様子を観ることができます。どの時代でも、家族を支え、家族のために戦っている父親の姿を知ることができ、さらに、財政を立て直すためには、計算することの大切さも教えてくれます。ご家族でご覧ください。

しかし、武士が出世したのにどうして家計が苦しくなるのでしょうか？

武士が藩へ出世をすると、①家来・使用人を雇わなければならない。②藩からもらった屋敷を維持しなければならない。③親戚や同僚への祝儀などの交際費を出費しなければならない。④使いの者にも謝礼をしなければならない。⑤他家を訪問したり、されたりする毎に手土産を常に用意しなければならない。⑥子供の通過儀礼等を親戚をも招いて披露しなければならない。

⑦江戸での単身赴任で暮らして、家庭との二重生活費を要する。等々の出費が多くなり、藩からの手当では賄えないそうです。なお、この映画は12月4日から大阪府下でき、つぎの映画館で放映されます。

梅田ピカデリー(Tel.06-6315-1414)・なんばパークシネマ(Tel.06-6643-3215)  
アポロシネマ8(Tel.06-6649-1255)・高槻アレックスシネマ(Tel.072-684-8088)  
ユナイテッド岸和田(Tel.072-437-9250)・ワーナー・マイカル茨木(Tel.072-621-0807)  
TOHOシネマズ泉北(Tel.072-295-4848) Mov i 堺(Tel.072-995-7200)  
布施ラインシネマ(Tel.06-6781-1567) TOHOシネマズ鳳(Tel.072-271-1040)  
シネマプレックス枚方(Tel.072-809-2800)

## ラジオ番組 MFもりぐち放送局 放送番組 : 「もりかど探偵団」

10月29日 午後3時35分～4時50分

(再放送：土曜日午後10時～ 日曜日午後11時～)

番組テーマ「近畿大会が門真であります。そろばん特集」

収録レポーター：上林 美香アナ。

カンちゃんこと上林 美香です。

小学生の時と商業高校で そろばんは習いましたが、・・・・・・・・  
今となっては加減算しかできない・・・・・・・・しかもめっちゃゆっくり  
暗算も苦手ですぐに携帯電話の電卓機能を使います。

そんな私が大阪山本速算会大久保道場で生徒の皆さんと一緒にそろばんを試してみる！！

・・・読み上げ算の1問目についていけない・・・

・・・電卓を使ってもムリムリ！

集中してそろばんに向かっている生徒の皆さんは答えを次々出していました！！

そろばんのことについては守口門真珠算協会会長の大西信二先生がいろいろ教えてくださいました。

そろばんをすることによって、計算力が高くなる以外に、集中力や創造力など様々なものが伸びていくそうです。

また、最近のそろばん教育は暗算を重視していることを教えてくださいました。

11月3日には守口門真商工会館で「近畿小中学生珠算競技大会」が開催されます。

一般の方も見学が可能だそうですので「頭脳のスポーツ」と言われるそろばん競技をご覧ください。

出場する皆さんはとても集中して競技に臨むので、見学される方は必ずマナーを守ってくださいね。

そして、そろばんで大学のAO入試に合格した高校3年生の寺西聡子さんにもインタビュー。寺西さんは珠算9段位、暗算10段位です。AO入試ではフラッシュ暗算を披露されたそうです。

そろばんには色々な「技」があるそうで、実際に披露して頂きました。

寺西さんは両手でそろばんをはじきます。だから速度がスゴイ！、めっちゃ速い！

スゴイ技を見せてくださいました。

大西先生、寺西さん、ありがとうございました。

<http://tanteidan.seesaa.net/article/167601231.html>

## 【教育ひとくちメモ】 - 4 -

### 【教育ひとくちメモ】 <7>

## 子供の基礎能力をしっかりと身につけましょう。

城間晃さんといえば、名実ともに体操界のジュニア指導者として評価をうけています。これまでに育てあげた選手には、池谷幸雄・西川大輔・富田洋之・鹿島丈博・米田功といった五輪のメダリストで、すべて城間さんの教え子です。

同氏は「基本力」という著書の中で、一流選手を育成する秘訣は「基本力」であると、熱っぽく述べています。つまり、一にも二にも最初の段階で体操の基本を徹底して身につけさせることが成長の決め手になると言います。そして、この基本力をしっかりと身につけた選手は、その後、高難度の技をもマスターできるようになると語っています。

では、具体的な基本力とし、どういうことをさすのでしょうか。勿論、分野によって異なります。親がお子様を育てるには、生きていくための基礎能力を早い段階から身につけさせることが大切です。生きていくための徳目としての「知・仁・勇」。

知識を身につけさせる基礎能力は「読み・書き・計算」の能力です。仁は人に対する思いやりも持つ能力で、今後の学校生活や地域社会での人との交流につながります。

勇は自分の考え・意見を発表できる能力とその勇気を持つ能力を育むことです。

親としてお子様の基礎能力を早い段階から身につけさせるようが大切なことです。

### 【教育ひとくちメモ】 <8>

## 子どもへの言葉が、一生を支え続けます。

親・教師など周囲の大人達の励ましの一言が、その子どもにとって一生を支え続けることもあります。励ましの言葉の大切な一例を紹介します。

ある小学校の教師の何げなく言った一言が一人の少年の一生を決めたという話です。

〇さんは小学1年生の学芸会で、「ピノキオの冒険」の主演になりました。幕が開く直前に、担任の先生から舞台の袖で「あなたは将来、日本一の役者になれる子だよ」と励ましをうけました。その後、〇くんは大学まで進学しましたが、先生のその一言から「必ず日本一の役者になる」という熱い思いを胸に秘めていました。ある時、一念発起して大学を中退し、役者の道を一筋に行こうと決めました。20年後、当時の担任の先生が、欠かさず観ていた連続テレビ小説で〇くんの姿を見つけ、テレビ局へ問い合わせました。そんなある日、担任の先生宅に〇さんが訪れました。

〇さんは抑えられない気持ちで、「ぼくは小学1年生の時、先生から日本一の役者になれると言われ、その一言を信じてやってきたから、今があります」と伝えました。

「話し手は忘れても、聞き手は一生忘れない」と言いますが、何気ない一言が子どもの心に焼き付き、長年にわたって励まし続けたのです。

子どもへの温かい励ましは、子どもの前向きな意欲を生じ、目標に向かって努力する気持ちを与えます。お子様への励ましの言葉に心がけましょう。